

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名(主)	ロジネットデザイン横浜
事業名(副) ※任意	

入力数 主 11 字 副 0 字

実行団体名	ココロにたねまき
資金分配団体名	一般社団法人全国食支援活動協力会

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>	
------------------------	--------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_2.飢餓をゼロに
_3.すべての人に健康と福祉を

実施時期	2021年6月 ~ 2022年2月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (横浜市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	●横浜市内で子供達を支援する団体（子ども食堂、こどもの居場所づくり、学習支援等） ●それらの団体を利用する子供達 ●母子生活支援施設、寄添い型生活、学習支援施設等	事業対象者人数	1200人/月 10000人/年
------	-------------------	--------	---	---------------------------------------	---	---------	---------------------

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的 (200字以内)
単独事業として、今まさに困難な状況にある方達の生活環境の底上げを実現し、その継続を図る事で精神の安定化および心の健全化に寄与する事業を展開します。また、後方支援事業として、かねてより支援事業を行っている公的・民間の団体と“人を救いたい”という共通項で繋がり、その活動を後方より支援する事で、その団体が継続的に活動できる環境を整え、ソーシャルセーフティーネットを維持する為の活動を行います。
(2)団体の概要・事業内容等 (200字以内)
単独事業として、小規模フードパントリーを市内複数の場所にて行います。そして、パントリーを利用する家庭向けに、非日常を提供するイベントを年6回行います。これにより、対象者の日常生活の向上を図りつつ、対象者に、安心して相談できる居場所を提供します。次に、現在のパントリー設備を増設し、より多くの食料品を一定の衛生管理の下で一時的保管し、物資運搬を担うボランティアと近隣で活動されている団体を繋ぎ、後方支援体制を整えます。これにより、間接的に対象者の支援活動を行います。

入力数 (1) 194 字 (2) 236 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題 (800字以内)
ひとり親家庭の中で父子家庭が約18万7000世帯。母子家庭は約123万2000世帯に上ります。そして、ひとり親世帯のうち約86%がシングルマザーであるという中に、貧困率を図る指標としての「相対的貧困」を表すと、ひとり親世帯の相対的貧困率は50.8%にもなり極めて高いことが分かります。シングルマザーが貧困に陥る理由として、基本的に仕事と子育て・家事を一人で両立しなければならない為に就労時間が限られることが挙げられます。（厚生労働省が公表した「平成28年度の国民生活基礎調査」）そして、母親が育児に携わる時間が少ないことで、子ども食事回数が三食とれない傾向にあります。そしてそれは新型コロナウイルスの感染拡大により母子家庭の18.2%が食事回数を減らし、14.8%が一回の食事を減らしていることが分かっています（しんぐるまざあず・ふぉーらむ）つまりそれは、子どもの成長を阻害する要因に成り得るといえます。また、食欲は人間が生きていく基本的な欲求であることから、それが満たされないことから児童虐待やネグレクトに発展する懸念が増えることを実感しています。それを防ぐ為に必要なのは親の安心感であると私達は経験上感じています。シングルマザーに安心を感じてもらい孤立を防ぐこと。そこの問題にリーチする為の食品の支援であると考えてます。一人でも多くのシングルマザーと繋がる為に、社協やケアプラザなどの団体と連携し宣伝し活動を広めています。そして地域に助け合いの意識を広め、意識を高めてもらう方法としてフードドライブも合わせて実施しています。フードドライブによってフードロスを防ぎ、地域の繋がりを高め、フードパントリーによる食品提供によって貧困問題に手を差し伸べていきたいと考えてます

入力数 759 字

III.事業内容

<p>(1)事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料品を冷凍・冷蔵・常温にて適切に一時保管し、在庫を管理するパントリー事業 ・フードバンク→パントリー→各支援団体へ支援物品の運搬事業 <p>後方支援事業として、受け入れた食料品を冷凍・冷蔵・常温にて適切に一時保管し、在庫を管理するパントリーを持ち、社会福祉協議会や食支援団体などが所有する、子供を支援する団体等へ連絡を取り合う為のメーリングリストに、提供可能な食料品、日用品の情報を掲載頂き、多くの子供を支援する団体と繋がり、食料品、日用品をお届けする仕組みを構築し、ソーシャルセーフティネットの維持に寄与する活動を行います。</p>

入力数 263 字

<p>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</p> <p>生鮮品(40kg)、冷凍品(120kg)、ドライ品(300kg)、米(300kg)を流動的に保管・管理するパントリーを保有 支援品受入ボランティア（5,6名）と衛生を含めた管理体制の確立 社会福祉協議会等と連携して多くの子供を支援する団体と繋がる</p>
--

入力数 120 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
活動拠点や車両を持たない団体が支援している子供達にも、食糧支援団体の支援物品が届く機会を与えられるネットワークの構築。	メーリングリストの登録団体数	利用の際に記入して頂く登録フォームの団体情報に基づき、支援されたであろう子供の数を把握	このネットワークを通じて支援されたであろう子供の累計10000人	2月末日

(4)活動	時期
情報を広めて頂けるよう、各区の社会福祉協議会等と話し合いを持つ	6月～2月
情報の発信（新規団体登録フォーム、支援品受渡しフォームを作成）	6月～継続
支援品の受け取り。拠点への配送。適宜在庫管理。	6月～継続
拠点在庫より各支援団体へ受け渡す。又は配達する。	6月～継続
可能であれば支援した記録写真を頂く。	6月～継続
拠点を増やし、その地域の方に配達してもらう体制を作る。	6月～継続

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	社協、ケアプラ等地域の活動団体と既に繋がっている団体と話し合い、支援品の受け取りを希望する団体を募る役割を、代表・副代表が中心となって進め、支援品の引き受け・在庫管理を、近隣在住の副代表・幹事を中心に、受渡し・配達を免許保持者の副代表・会計・幹事を中心とした運転ボランティアチームが担う。全体のサポートを書記が行う。
(2)他団体との連携体制	個人・企業・店舗等からの寄付や食支援団体・フードバンク等より提供頂いた支援品を、パントリーにて受渡し、若しくは車両にて配達する事で、母子生活支援施設、寄添い型生活支援施設、子供を支援する個人・団体へお届けする。
(3)想定されるリスクと管理体制	慣れない地域での運転による交通違反、事故が自己責任となるので、任意保険での対応となる事の了承を得る。